

とよなか ゆめ・まち・ひと

リレーエッセー



私の好きな時間の一つに、緑道をゆっくり歩く、というものがあります。周りの木々の緑を眺めたり、行き交う子どもたちのジグザグな動きに驚いたり、道の表面の模様をたどったり。そうしているうちに、普段から考えている問題の答えが、頭に

科学と緑道

浮かんできます。

私の職業は「理論物理学者」というもので、大阪大学豊中キャンパスに勤めています。物理学は、世の中のさまざまな現象の仕組みを調べ、明らかにしていくものです。理論というのは、数式を使って、頭の中で現象を整理し、そこから予測することです。

例えば、緑道の一つの木が枯れかかっていたとしましょう。私はこう思います。「先週は葉が結構付いていたのに、今日は葉が白っぽくなっている。この

まだまだと来週には、葉の病気が木の半分まで広がってしまうだろう」。これは科学の考え方です。観察して、数を数え、予測するので。

私は普段、家の周囲の緑道をウロウロしています。清々^{すがすが}しい緑に囲まれた道を30分ほど歩くと、どんどん頭の中が整理されていきます。そして、難しいなと思っていたことが、実は簡単に解決できてしまうことがあります。

私の研究の対象は物理学の問題ですが、無理にそれを解こう

橋本 幸士 [大阪大学教授・理論物理学者]

豊中市在住。昭和48年(1973)生まれ。平成12年(2000)京都大学大学院理学研究科博士課程修了。カリフォルニア大学、東京大学、理化学研究所などを経て平成24年から現職。専門は理論物理学、超弦理論。著書に『超ひも理論をパパに習ってみた 天才物理学者・浪速阪教授の70分講義』(講談社サイエンティフィク)、など。舞台芸術、造形展示、映画、漫画などアートの分野でも活躍中。



風物詩

とよなか



キンカン

【ミカン科ミカン属／常緑低木】

正月料理を彩る黄金色の果実。

夏、芳香のある白色の花を咲かせ、冬には橙黄色とうこうの小さな実をたくさん実らせます。14世紀頃に中国から渡来。果樹として暖地で多く栽培されます。せき止めに効くとされ、生食のほか砂糖漬けや甘露煮などで親しまれ、正月のおせち料理では「金冠」は富をもたらす縁起物とされています。

実の見頃は1月～3月。

ふれあい緑地(服部西町)、豊南町東第7号線(豊南町東)などで見られます。



と、緑道に出かけるのではありません。いつも頭の中に問題を蓄えて過ごしていますが、問題の解決が、なぜか緑道を歩いているときにやってくるのです。旅行に行つて見知らぬ街で同じことを試しても、うまくいきません。私が6年前に越してきた豊中市の緑道では、とてもうまくいきます。普段の観察から始まる科学には、豊中の緑道は良い環境なのです。

大阪大学は、緑豊かな待兼山

にあります。ノーベル賞を受賞した湯川秀樹や南部陽一郎が研究をしていた伝統ある大学であり、今もその伝統を受け継いで、たくさんの方々が研究をしています。

皆さんは、科学者に会って話をするのは、あまりないかもしれません。科学者は、実は豊中市のそこらじゅうにいます。私のように、ジーパンにTシャツで、緑道をふらふら、ウロウロ、歩いているかもしれません。

【奇数月は「リレーエッセー」、偶数月は「豊中っ子」を掲載します】

科学に興味を持ったきっかけは？

小学生のときに、数字にとっても興味を持ちました。算数が、まるで積み木のように「カチャカチャ」と美しくはまっていくのが不思議で、心から楽しかったのをよく覚えています。